

Kansai Economic Insight Monthly

2017/3/24

Vol.47 February/March

・ APIR “Kansai Economic Insight Monthly”は、関西経済とそれに関連する中国経済の動向に関する分析レポートです。

・ レポート公開時期は毎月第 4 週金曜日を予定しています。

・ 執筆者は、稲田義久(甲南大学教授、APIR 数量経済分析センター長)、林万平・木下祐輔・James Brady・Cao Thi Khanh Nguyet(各 APIR 研究員)及び豊原法彦(関西学院大学教授)です。

・ 本編内の中国景気モニターは、APIR 中国経済分析のプロジェクトによるものであり、関西経済分析と連動して定期的に発信します。

・ 本レポートにおける「関西」は、原則として滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の 2 府 4 県です。統計出所を発表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一しています。

目次

要旨	1
関西経済のトレンドと CI, CLI	2
景気の現況	3
関空モニター	8
中国景気モニター	9
主要月次統計	13
Release Calendar	14

要旨

-景気は足下、先行きともに改善が続く*-

- ✓ 1月の鉱工業生産指数は3カ月ぶりのマイナスだが、10-12月平均比+1.8%となっており、近経局は「生産は持ち直しの動きが見られる」と判断している。
- ✓ 2月の輸出は2カ月ぶりの前年比増加、輸入は2カ月ぶりに同減少した。結果、貿易収支は2か月ぶりの黒字となった。
- ✓ 2月の消費者態度指数は3カ月ぶり、景気ウォッチャー現状判断DIは2カ月連続で、いずれも悪化した。依然として消費者の節約志向は強いものの、インバウンド需要の増加への期待もあり、先行き見通しは3カ月ぶりに改善した。
- ✓ 11月の関西2府4県の現金給与総額は5カ月連続で減少し、下落幅も拡大。一方、12月の「関西コア」賃金指数は6カ月ぶりの増加。一時的な増加かどうか、今後の動きに注視が必要。
- ✓ 1月の大型小売店の販売額は6カ月連続の前年比マイナス。農産品の相場高や、訪日外国人に対する販売が堅調だったものの、天候不順等により衣料品等が不振であったため。
- ✓ 1月の新設住宅着工戸数は3カ月連続の前年比増加。全国は東京五輪・パラリンピックの選手村建設による特殊要因が影響したため、関西よりも高い伸びであった。
- ✓ 1月の有効求人倍率は前月比横ばいだが、依然として高水準が続く。新規求人倍率は3カ月ぶりに低下したものの、企業の求人意欲は旺盛である。完全失業率は3カ月ぶりに改善し、1998年以降で最も低水準となった。雇用環境は好調が続いている。
- ✓ 2月の公共工事請負金額は5カ月連続の前年比マイナスとなったものの、前月比ではプラスに転じており、補正予算の効果が出始めたようである。
- ✓ 2月の関空への訪日外客数は49万9,570人となり、2013年1月以来、49カ月ぶりの減少となったものの、引き続き高水準で推移している。
- ✓ 中国の2月の生産者物価指数(PPI)の伸びは2016年9月にプラスに転じてから、6カ月連続で加速。原油価格の上昇に加え、需給バランスの改善からデフレ圧力は緩和している。

※景気の基調判断はAPIR(豊原法彦リサーチリーダー)開発の関西景気動向指数(CI, CLI)に基づいている。
関西全体のCI, 試作CLIの推移は2ページを参照。

【関西経済のトレンド】

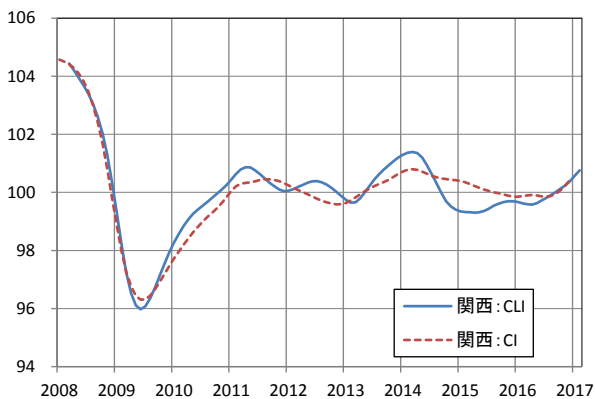
	2016年												2017年	
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
生産	↘	↗	↘	↘	↘	↘	↗	↗	↘	↗	↗	↗		
貿易	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↘	↗	
センチメント	↘	↘	↗	↗	↘	↗	↘	↘	↗	↗	↗	↘	↗	
消費	↗	↗	↗	↘	↘	↗	↘	↘	↘	↘	↘	↗		
住宅	↗	↗	↗	↗	↘	↗	↘	↗	↗	↗	↗	↗		
雇用	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↘	↗	↗	↗	↗	↗		
公共工事	↗	↗	↗	↗	↘	↗	↗	↗	↘	↘	↗	↘	↘	
中国	↘	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	

(*トレンドの判断基準)

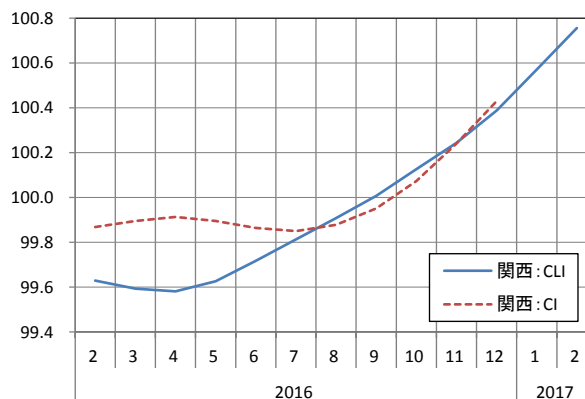
- ・ **生産**: 近畿経済産業局『近畿地域広工業生産動向』生産指数(季節調整値)が前月比+0.5%以上であれば上向き、同-0.5%未満であれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **貿易**: 大阪税関『貿易統計』の近畿圏貿易収支(入出超額)前年同月から500億円以上の改善は上向き、同500億円以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **センチメント**: 内閣府『景気ウォッチャー調査』の近畿現状判断(方向性)DIが前月比で1ポイント以上の改善は上向き、1ポイント以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **消費**: 近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース)が前年同月比で1%以上増加していれば上向き、同1%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **住宅**: 国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **雇用**: 厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値)が前月比で0.01ポイント以上の改善は上向き、変化がなければ横ばい、0.01ポイント以上の悪化は下向きとする。
- ・ **公共工事**: 西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。

【関西の景気動向指数(CI一致指数・試作 CLI)の推移】

CI一致指数・試作 CLI の推移(2008年1月～2017年2月まで)



直近1年間の推移(2016年1月～2017年2月まで)



【鉱工業生産動向】

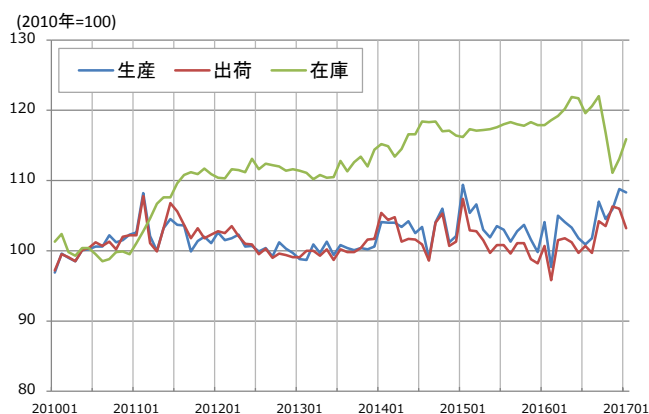
(1) 関西の生産動向

1月関西の鉱工業指数(速報値：季節調整済、2010年=100)を見ると、生産は108.3で、前月比-0.5%と3カ月ぶりの下落。出荷は103.2で同-2.6%と2カ月連続の下落。在庫は115.9で同+2.5%と2カ月連続の上昇。なお、生産と強い関係がある実質輸出(季節調整済、2010年=100)は104.2であり、同-3.4%と2カ月連続の下落。

業種別に生産指数をみると、金属製品(前月比+25.2%、2カ月連続)、プラスチック製品(同+5.3%、3カ月ぶり)、情報通信機械(同+8.0%、2カ月ぶり)等が増産となった。一方、化学(除・医薬品)(同-4.5%、2カ月連続)、輸送機械(除・航空機・鋼船・鉄道車両)(同-7.3%、8カ月ぶり)、窯業・土石製品(同-4.1%、2カ月ぶり)等が減産となった。

1月の生産は10-12月平均比+1.8%となっており、近畿経済産業局は「生産は持ち直しの動きが見られる」と判断している。

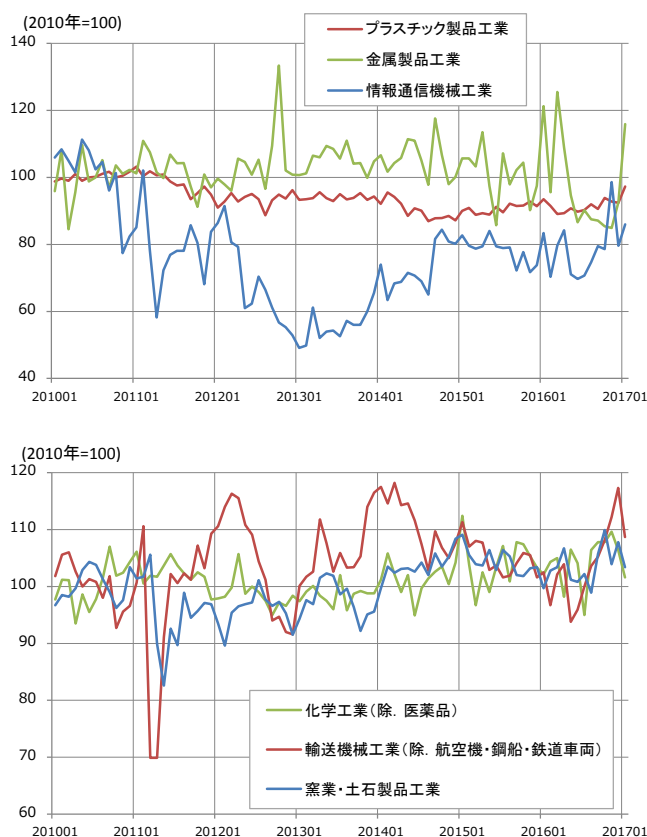
関西の鉱工業指数の推移(2017年1月まで)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

関西の業種別生産指数の推移(2017年1月まで)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

(2) 全国の生産動向

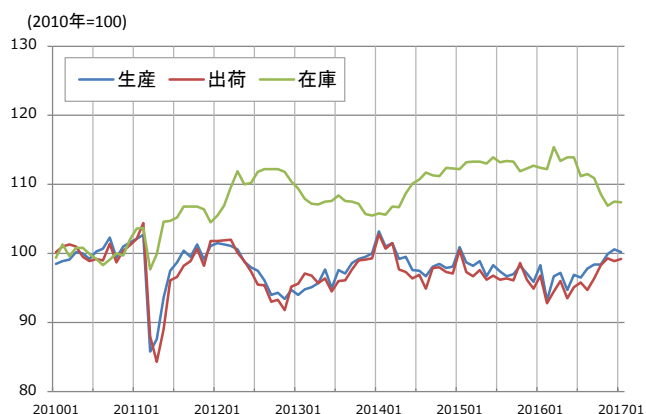
1月全国の鉱工業指数(確報値：季節調整済、2010年=100)を見ると、生産は100.2となり前月比-0.4%と6カ月ぶりの下落。出荷は99.2で同+0.3%と2カ月ぶりの上昇。在庫は107.4で同-0.1%と2カ月ぶりに下落した。

業種別にみると、輸送機械(前月比-4.2%)、化学工業(同-3.0%)、はん用・生産用・業務用機械(同-2.0%)等は減産となった。一方、電子部品・デバイス(同+5.7%)、食料品・タバコ(同+4.6%)、金属製品(同+2.3%)等が増産となった。

製造工業生産予測調査によると、2月は前月比+3.5%の増産であるが、3月は同-5.0%と3カ月ぶりの減産予測である。

経済産業省は生産の基調を「持ち直しの動きが見られる」としている。

全国の鉱工業指数の推移(2017年1月まで)



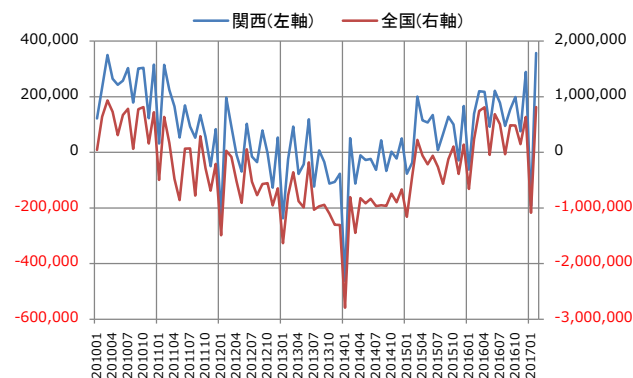
(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

【貿易動向】

(1) 純輸出

貿易概況(速報値)によれば、関西2月の貿易収支は3,569億円と2カ月ぶりの黒字となり、黒字幅は前年同月比+157.1%改善した。全国の貿易収支(速報値)は8,134億円と2カ月ぶりの黒字となり、黒字幅は同+245.5%拡大した。

関西・全国の貿易収支の推移:(百万円, 2017年2月まで)



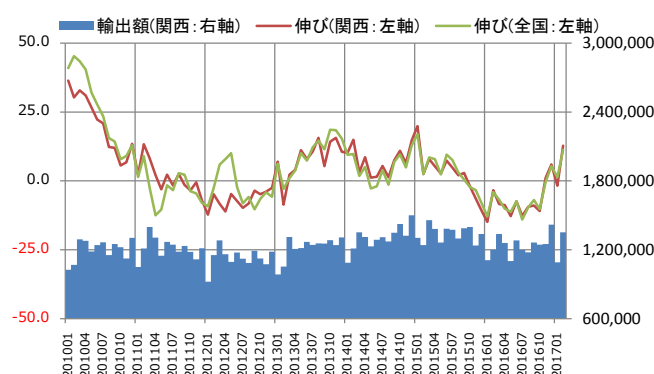
(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料:近畿圏」

(2) 輸出

関西2月の輸出額(速報値)は1兆3,531億円で前年同月比+12.8%と2カ月ぶりの増加。財別に見れば、科学光学機器、半導体等電子部品が増加した。

全国2月の輸出額(速報値)は6兆3,465億円、前年同月比+11.3%と3カ月連続の増加。財別に見れば、自動車の部品、半導体等電子部品、科学光学機器が増加した。

関西・全国の輸出の推移(百万円, 前年同月比, 2017年2月まで)



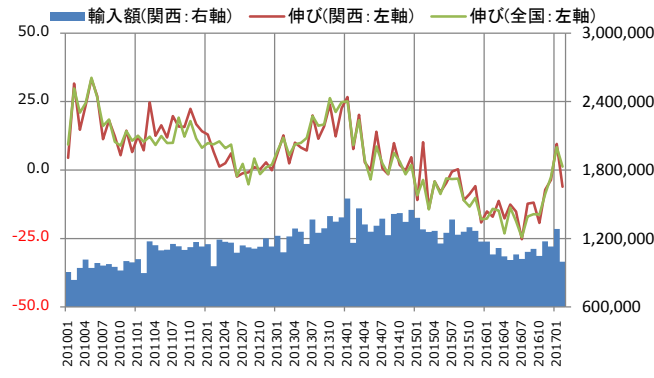
(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料:近畿圏」

(3) 輸入

関西2月の輸入額(速報値)は9,962億円、伸びは前年同月比-6.1%と2カ月ぶりの減少。財別に見れば、衣類及び同附属品、医薬品が減少した。

全国2月の輸入額(速報値)は5兆5,331億円、前年同月比+1.2%と2カ月連続の増加。財別に見れば、原油、石炭、石油製品の輸入が増加した。

関西・全国の輸入の推移(百万円, 前年同月比, 2017年2月まで)



(出所) 財務省「財務省貿易統計」

(4) 関西の地域別貿易

関西2月の貿易収支を地域別に見ると、対アジア貿易収支は+4,006億円と2カ月ぶりの黒字となり、貿易収支は前年同月比+132.0%改善した。輸出は2カ月ぶりの増加(同+17.6%)。財別に見れば、半導体等電子部品、科学光学機器等が増加した。一方、輸入は2カ月ぶりの減少(同-14.8%)。財別に見ると、衣類及び同附属品、天然ガス及び製造ガス等が減少した。

うち、対中貿易収支は+720億円と2カ月ぶりの黒字となった。輸出は4カ月連続の増加(同+31.7%)。財別に見ると、科学光学機器、半導体等電子部品が増加した。輸入は2カ月ぶりの減少(同-19.1%)。財別に見ると、衣類及び同附属品、バッグ類が減少した。

対米貿易収支は+900億円の黒字となり、黒字幅は8カ月ぶりに拡大した(同+10.5%)。うち、輸出は16カ月ぶりの増加(同+5.5%)。財別に見れば、電機計測機器、医薬品等が増加した。輸入は3カ月連続の増加(同+1.4%)。財別に見れば、無機化合物、天然ガス及び製造ガス等が増加した。

対EU貿易収支は+271億円と2カ月ぶりの黒字となった。輸出は3カ月ぶりの増加(同+12.8%)。財別に見れば、原動機、遊戯用具等が増加。輸入は2カ月ぶりの減少(同-13.1%)。財別に見れば、医薬品、重電機器等が減少した。

【消費者センチメント】

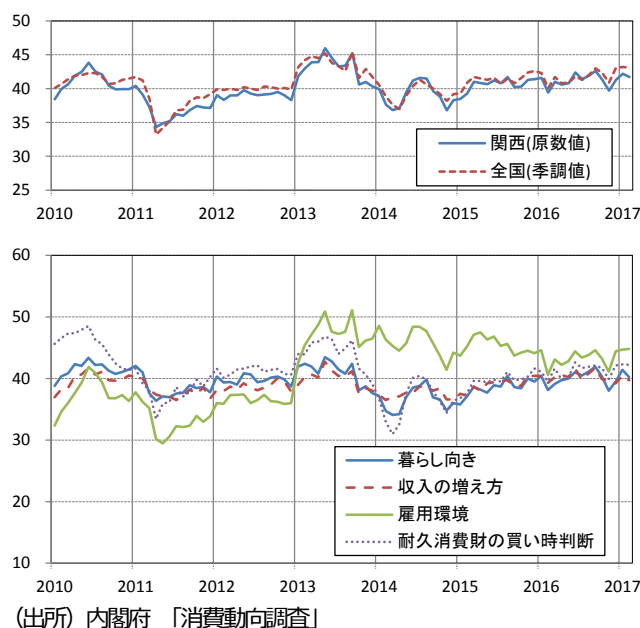
(1) 消費者態度指数の動向

関西の2月の消費者態度指数(原数値)は前月比-0.5ポイント低下し41.7となり、3カ月ぶりの悪化。全国(季節調整値)は-0.1ポイント小幅下落し43.1となり、こちらも3カ月ぶりの悪化であった。

全国と同指数の構成項目を見ると、「雇用環境」が前月比で+0.2ポイント上昇。一方、「収入の増え方」は同-0.2ポイント、「暮らし向き」「耐久消費財の買い時判断」はいずれも同-0.1ポイント低下した。雇用環境の改善が続く一方で、賃金が伸び悩んでいること、野菜の値上がりで消費者の節約志向が薄れなかったことなどが、悪化につながったようである。内閣府は消費者心理の基調判断を「持ち直しの動きがみられる」として、据え置いた。

また、関西の同指数構成項目は、雇用環境を除く3指標が悪化した。内訳を見ると、「雇用環境」が前月比+0.1ポイント上昇した一方で、「暮らし向き」が同-1.2ポイント、「収入の増え方」が同-0.8ポイント、「耐久消費財の買い時判断」が同-0.1ポイントそれぞれ低下した。

消費者態度指数(2017年2月まで)

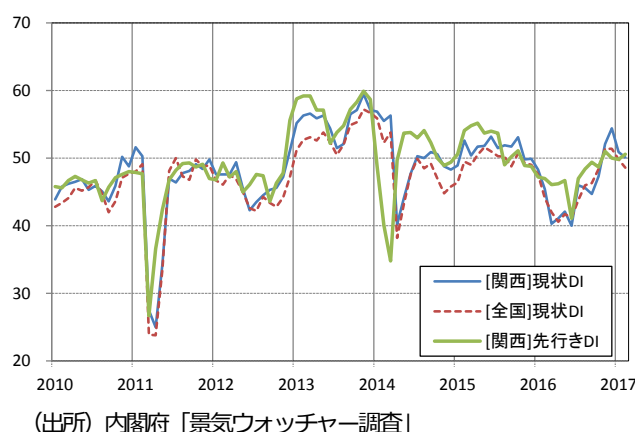


(2) 景気ウォッチャー指数の動向

関西の2月の現状判断DI(季節調整値)は50.1と前月比-0.8ポイント低下し、2カ月連続の悪化。ただし、景況感の良し悪しに分かれ目となる50を4カ月連続で上回っている。全国は48.6で同-1.2ポイント低下し、こちらも2カ月連続の悪化。

バレンタイン商戦は好調だったものの、依然として消費者の節約志向は強く、指数全体で見ると悪化した。関西では前月に続き、インバウンド関連の消費が堅調であったことから、全国を上回ったとみられる。

景気ウォッチャー調査(2017年2月まで)



【所得・個人消費・住宅】

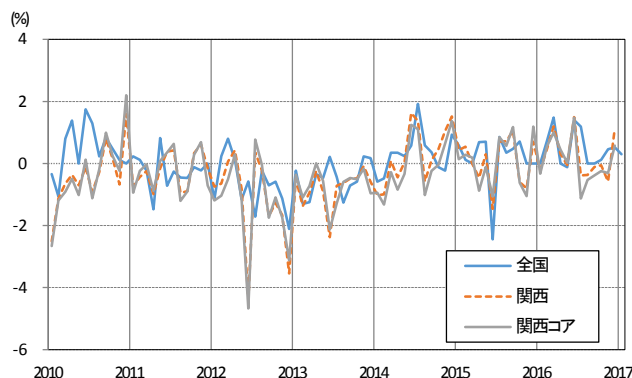
(1) 現金給与総額

11月の関西2府4県の現金給与総額(APIR推計)は26万7,656円で前年同月比-0.6%となり、5カ月連続の減少。下落幅は幾分拡大している。府県別では、京都府が同+1.4%(2カ月ぶり)、兵庫県が同+0.2%(2カ月連続)の増加。一方、和歌山は同-3.6%(6カ月ぶり)、奈良県が同-2.5%(2カ月ぶり)、滋賀県が同-1.2%(10カ月ぶり)、大阪府が同-1.0%(5カ月連続)の減少となった。また、12月の京都・大阪・兵庫の加重平均をとった速報性のある「関西コア」賃金指数(APIR推計)は同+0.6%増加した。6カ月ぶりの改善であるが、一時的な増加かどうか、今後の動きに注視が必要である。

全国(確報値)の現金給与総額をみると、1月は前年同月比で+0.3%と4カ月連続の上昇であった。内訳をみると、所定内給与は同+0.6%と7カ月連続の上昇。所定外給与は同-0.2%と8カ月連続の低下。特別給与は同-2.0%と3カ月ぶりの低下。なお、今月から調査事業所の抽出替えに伴い、指数が改訂されている。

また、現金給与総額から物価上昇分(帰属家賃を除く総合)を除いた実質賃金は同-0.1%(速報値：同+0.0%)と小幅下落した。

現金給与総額(前年同月比：%、2017年1月まで)



(注) 関西・関西コア(京都、大阪、兵庫)はAPIR推計値。現金給与総額を当該常用労働者数(2011年平均)で加重平均。

(出所) 厚生労働省「毎月勤労統計調査」

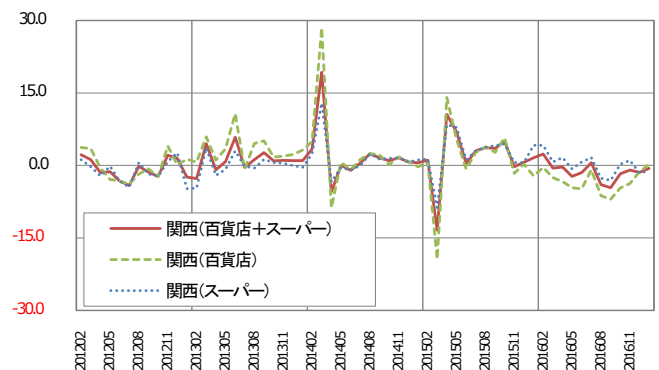
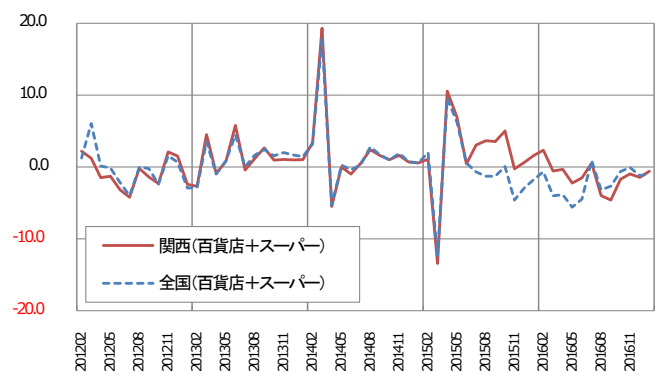
(2) 大型小売店販売額(注：近畿速報、全国確報)

関西1月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は3,309.1億円となり、前年同月比-0.6%と6カ月連続のマイナス。百貨店は同+0.2%増加し、13カ月ぶりのプラス。スーパーは同-1.1%と2カ月連続のマイナス。

1月の百貨店・スーパーの販売額は、農産品の相場高や、訪日外国人に対する販売が堅調だったものの、天候不順等により衣料品等が不振であったためである。

全国1月の大型小売店販売額(全店ベース)は1兆6,743億円と、前年同月比-1.0%と6カ月連続の減少であった。経済産業省は小売業販売額(季節調整済)のトレンドは「持ち直しの動きがみられる」としている。

大型小売店販売額(前年同月比：%、2017年1月まで)



(注) 福井県を含む。(出所) 経済産業省「商業動向統計」

(3) 新設住宅着工の動向

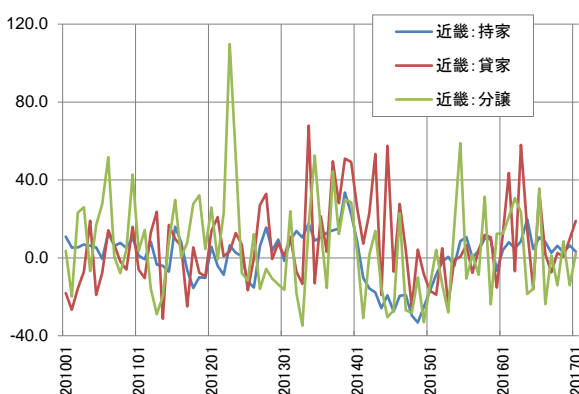
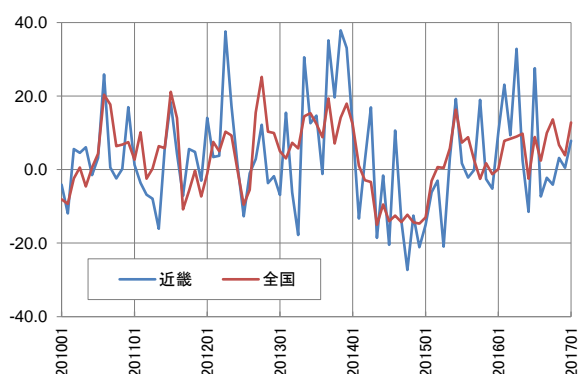
関西1月の新設住宅着工戸数は11,409戸と前年同月比+7.8%となり、3カ月連続の増加。全国は76,491戸と同+12.8%増加し、7カ月連続のプラスとなった。2020年に

開かれる東京五輪・パラリンピックの選手用宿泊施設(選手村)に関連した特殊要因が影響した。

関西の住宅着工戸数を利用関係別にみると、持家は2,688戸で前年同月比+3.2%と13カ月連続のプラス。貸家は4,783戸で同+18.9%と4カ月連続の増加。また、分譲は3,879戸と同+2.2%となり、2カ月ぶりのプラスとなった。

2月の関西のマンション契約率は76.5%(季節調整値、APIR 推計)。好不調の目安となる70%を9カ月連続で上回った。一方、首都圏は67.2%(季節調整値、APIR 推計)と、前月から上昇した。

新設住宅着工戸数(前年同月比：％、2017年1月まで)



(出所) 国土交通省「住宅着工統計」

【雇用動向】

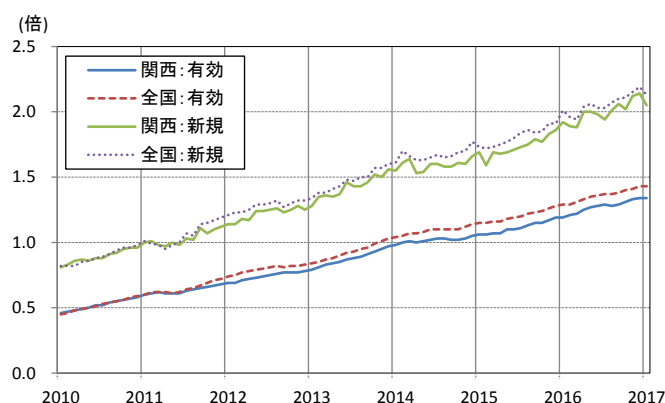
(1) 求人倍率の動向

1月の関西の有効求人倍率は、1.34倍で前月比横ばいだが、依然として高水準が続いている。また、1月の全国は1.43倍でこちらも同横ばいとなっており、雇用情勢は引き続き好調である。なお、今月から季節指数が改訂されている。

有効求人倍率を府県別にみると、京都府で前月比+0.03ポイント、和歌山県で同+0.01ポイント小幅上昇した。一方、兵庫県は同横ばい、奈良県で同-0.02ポイント、滋賀県及び大阪府では同-0.01ポイント小幅下落した。

1月の関西の新規求人倍率は、2.05倍で前月比-0.09ポイントと3カ月ぶりの下落。新規求人数が同-5.3%減少したことによるものだが、2.14倍であった前月の反動とみられ、企業の求人意欲は引き続き旺盛であると考えられる。

求人倍率の推移(季節調整値、2017年1月まで)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

関西2府4県有効求人倍率(2016年12月-2017年1月)

	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
1月	1.43	1.34	1.24	1.39	1.46	1.20	1.22	1.19
12月	1.43	1.34	1.25	1.36	1.47	1.20	1.24	1.18

(2) 完全失業率の推移

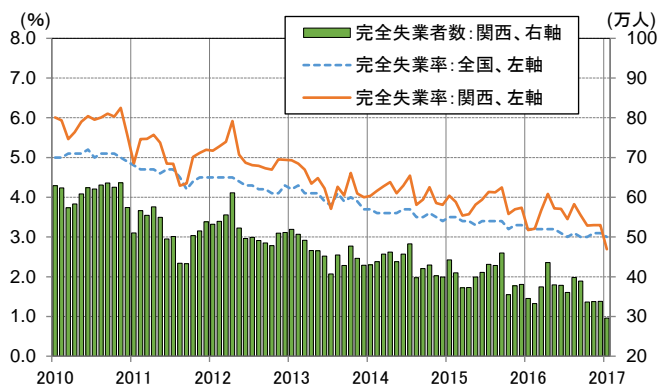
1月の関西の完全失業率(季節調整値：APIR 推計)は2.7%と前月比-0.6%ポイント低下し、2カ月連続の横ばいの後、1月は大幅に改善した。地域統計が利用できる1998年以降、最も低水準となり、労働需給は非常に引き締まった状態が続いている。内訳をみると、労働力人口と就業者数がともに増加していることから、雇用環境は好調であると見られる。なお、今月から季節指数を改訂している。

関西の完全失業者数(季節調整値：APIR 推計)は29.6万人で前月から4.2万人減少。3カ月ぶりの改善であった。

全国の完全失業率(季節調整値)は3.0%と、前月比-0.1%ポイント小幅低下しており、極めて低水準の状態が続いている。

全国の完全失業者数(季節調整値)は198万人で前月から-9万人減少。また、就業者数が前月比で+5万人増加しており(2カ月連続)、雇用は改善傾向が続いている。

完全失業率の推移(季節調整値:2017年1月まで)



(出所) 総務省「労働力調査」

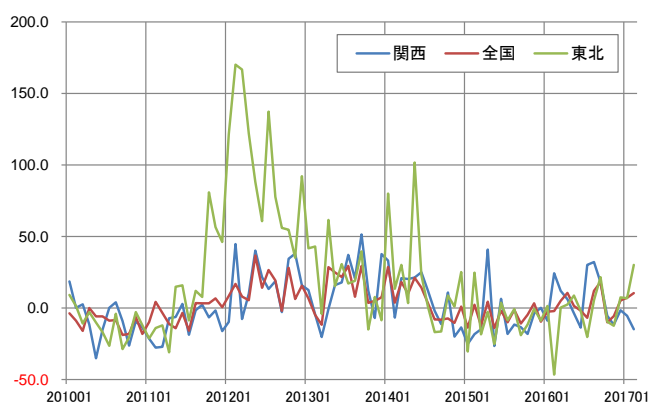
【公共投資】

(1) 公共工事請負金額

関西2月の公共工事請負金額は681.2億円で前年同月比-14.9%と5カ月連続の減少。全国は7,693億円で同+10.4%と3カ月連続の増加。東北は1,289億円で同+30.2%と3カ月連続のプラス。

季節調整値(APIR推計)で見ると、関西は2カ月ぶりのプラス、全国は4カ月連続のプラス(関西:前月比+9.4%、全国:同+7.7%)となった。関西公共工事請負金額は前年比マイナスとなったものの、前月比ではプラスに転じており、補正予算の効果が始まったようである。

公共工事請負金額(前年同月比:%、2017年2月まで)



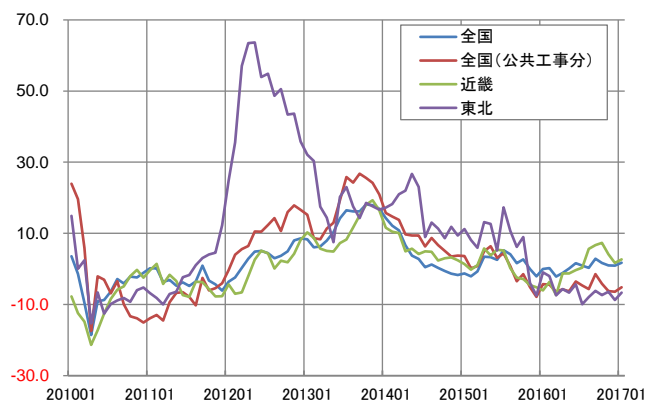
(出所) 東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

(2) 建設工事

関西1月の建設工事出来高は5,796億円で、前年同月比+2.7%と7カ月連続の増加。東北については5,522億円で、同-6.7%と15カ月連続の減少。全国と比べて、関西の建設工事は堅調である。

全国1月の建設工事出来高は4兆6,911億円となり、前年同月比+1.7%と9カ月連続の増加。うち、公共工事は1兆9,857億円で、同-5.2%と17カ月連続のマイナス。

建設工事(前年同月比:%、2017年1月まで)



(出所) 国土交通省「建設総統計」

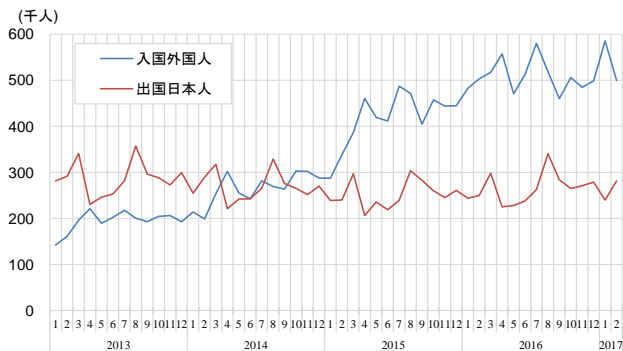
【関空モニター】

(1) 訪日外客数トレンド

2月の関空への訪日外客数は49万9,570人となり、前年同月比-0.7%と2013年1月以来、49カ月ぶりの減少となったものの、引き続き高水準で推移している。一方、出国外国人数が54万8,640人と同+3.1%増加したことから、外国人旅客総合数(出入国合計)全体では104万8,210人と同+1.3%増加した。

また、出国日本人数は28万1,430人で、前年同月比+12.7%と2カ月ぶりに増加した。

訪日外客数と出国日本人数(2017年2月まで)



(出所) 一般財団法人関西空港調査会「KANSAI 空港レビュー」

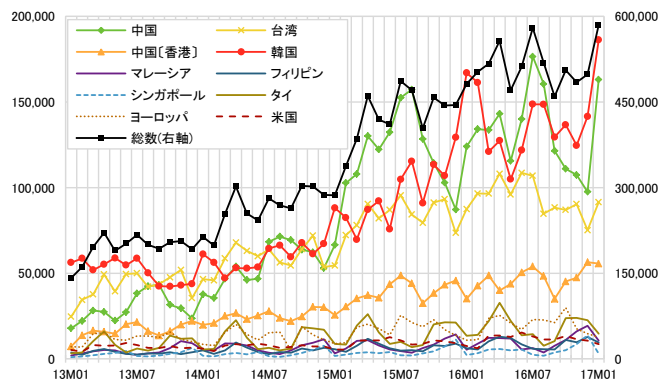
(2) 地域別訪日外客数

訪日外客数を地域別にみると、1月(韓国からの入国者数が18万6,204人と5カ月連続で最も多くなっており、前年同月比+11.6%と31カ月連続のプラスとなった。次いで、中国(香港除く)が16万3,001人(同+31.5%)と3カ月連続のプラス。台湾が9万1,423人(同+4.6%)と、2カ月連続のプラス。また、中国(香港)が5万5,622人(同+58.8%)であった。

他のアジア各国からの入国者数は、タイが1万4,651人(前年同月比+8.5%)、マレーシアが1万644人(同+98.5%)、シンガポールが3,072人(同+40.5%)、フィリピンが9,591人(同+56.5%)となった。

その他を見ると、ヨーロッパが1万2,662人(前年同月比+15.9%)、米国が8,636人(同+14.0%)であった。

地域別訪日外客数(2017年1月：人、右軸：総数、左軸：各国)



(出所) 法務省「出入国管理統計」

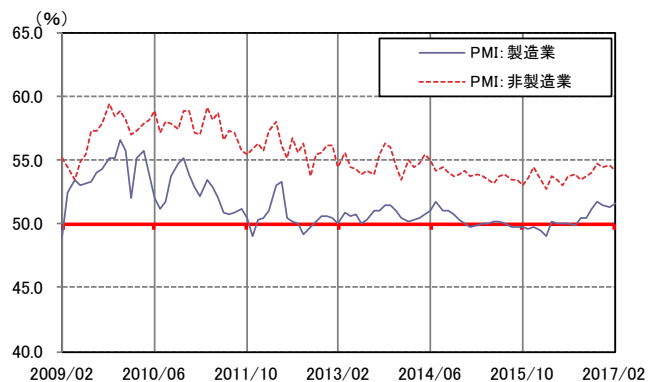
【中国景気モニター】

(1) センチメント

2月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は51.6となり、伸びは前月から+0.3ポイント上昇し、3カ月ぶりの改善。7カ月連続で分岐点である50を上回った。一方、非製造業購買担当者景況指数は54.2となり、伸びは同-0.4ポイント低下し、2カ月ぶりの悪化となった。

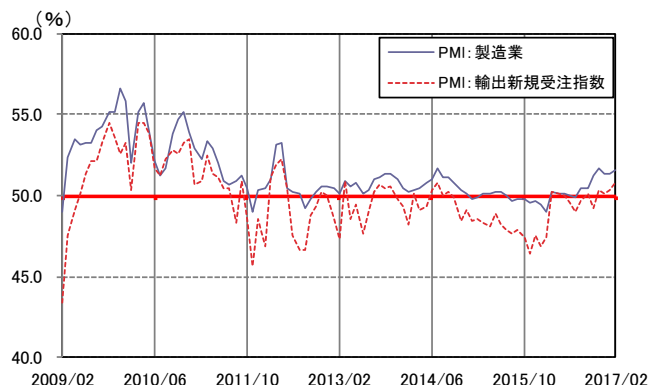
製造業 PMIのうち、生産指数は53.7となり、前月比+0.6ポイント上昇した。3カ月ぶりの改善。また、輸出新規受注指数は50.8となり、同+0.5ポイント上昇し、2カ月連続の改善。雇用指数は49.7となり、伸びは同+0.5ポイント上昇し、こちらも2カ月連続の改善となった。

中国製造業・非製造業購買担当者景況指数(2017年2月まで)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

中国製造業購買担当者景況指数(2017年2月まで)



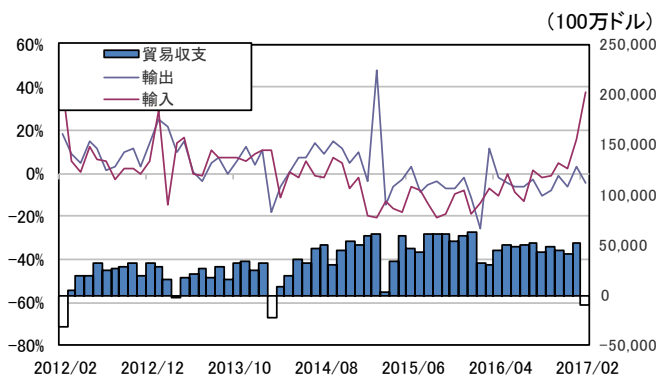
(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(2) 貿易動向

2月の貿易収支は-91.5億ドルとなり、2014年2月以来36カ月ぶりに赤字に転じた。うち、輸出額(速報値、ドル・ベース)は1,200.8億ドルとなり、前年同月比-4.8%減少。一方、輸入額は1,292.3億ドルとなり、同+38.1%大幅上昇した。

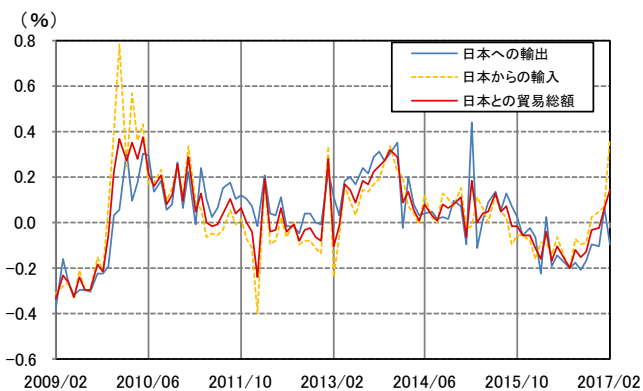
また、対日貿易収支は-44.7億ドルとなり、2カ月ぶりの赤字となった。うち、対日輸出額は79億ドルとなり、前年同月比-7.8%減少し、2カ月ぶりの減少。一方、対日輸入額は123.7億ドルとなり、同+39.4%と7カ月連続で増加した。なお、円ベースでみると、対日輸出額は同-9.3%と2カ月ぶりの減少。また、対日輸入額は同+37.0%と、4カ月連続の増加であった。

中国の貿易動向 (前年同月比：ドル・ベース) (2017年2月まで)



(出所) 中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

日本との貿易 (前年同月比：円ベース) (2017年2月まで)



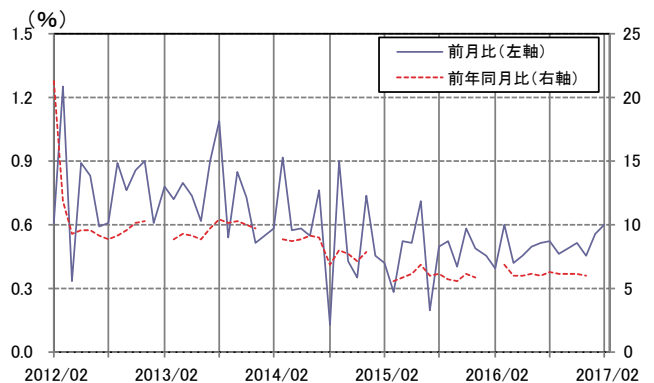
(出所) 中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

(3) 工業生産

2月の工業生産は前月比+0.6%となり、伸びは前月から+0.04%ポイント上昇し、2カ月連続で加速した。

産業別に見ると、自動車製造業(前年同月比+17.0%)、パソコン・通信設備製造業(同+14.1%)、専用設備製造業(同+11.5%)、医薬製造業(同+10.7%)などが高い伸びを示す一方で、鉄道・輸送機器製造業(同+3.2%)などは比較的低調な伸びにとどまった。また、鉄鋼などの精練・圧延加工業(同-9.1%)と有色金属圧延加工業(同-0.4%)の生産が縮小した。

工業生産指数(2017年2月まで)

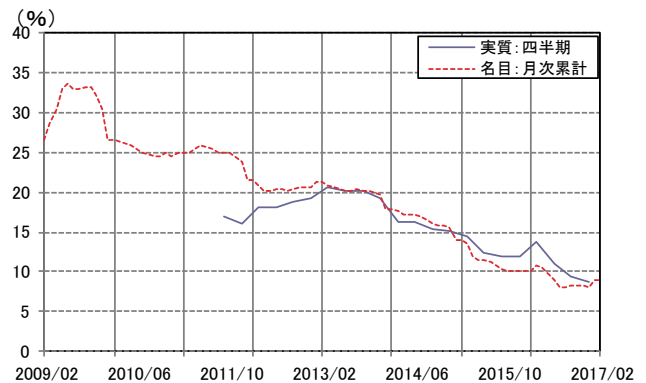


(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(4) 固定資産投資

1-2月期の(累積)固定資産投資(名目)は前年同期比+8.9%となり、2016年1-12月期(+8.1%)から+0.8%ポイント上昇した。

固定資産投資 (2017年2月まで) (累積伸び率)



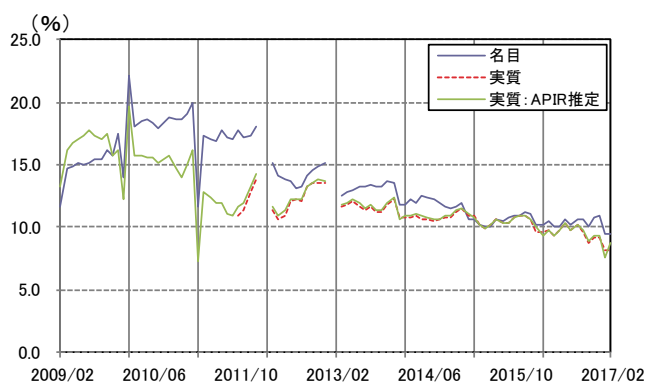
(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

産業別に見ると、第1次産業は同+19.1%、2016年1-12月期(同+21.1%)より-2.0%ポイント低下。第2次産業は同+2.9%と1-12月期(同+3.5%)から-0.6%ポイント低下。第3次産業は同+12.2%と1-12月期(同+10.9%)から+1.3%ポイント上昇した。

(5) 消費

1-2月の社会消費品小売総額(名目)は前年同月比+9.5%となり、伸びは昨年12月(同+10.9%)より-1.4%ポイント低下した。

社会消費品小売総額成長率の推移(2017年2月まで)



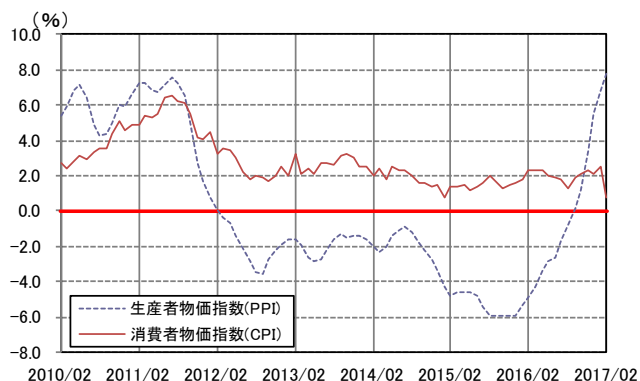
(注) APIR 推定は小売価格指数を用いて計算した値

(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(6) 物価水準

2月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比+0.8%上昇した。伸びは前月から-1.7%ポイント低下し、2カ月ぶりの減速。また、生産者物価指数(PPI)は同+7.8%となり、伸びは前月から+0.9%ポイント上昇。2016年9月にプラスに転じてから、伸びは6カ月連続で加速した。原油価格の上昇に加え、需給バランスの改善からデフレ圧力は緩和している。

消費者物価指数と生産者物価指数(2017年2月まで)

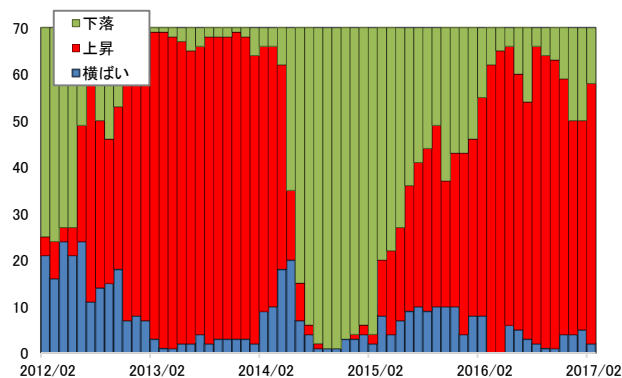


(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(7) 不動産市場

2月の不動産価格(新築住宅価格)を見ると、中国主要70都市のうち、価格が上昇した都市数は56都市で前月から11都市増加し、6カ月ぶりの改善。一方、価格が下落した都市数は12都市で前月から8都市減少。価格が横ばいの都市数は2都市で、前月から3都市減少した。不動産市場は9月から行われている価格調整政策の影響で低調であったが、底打ちをした可能性もある。

新築住宅価格の主要都市集計(2017年2月まで:都市数)



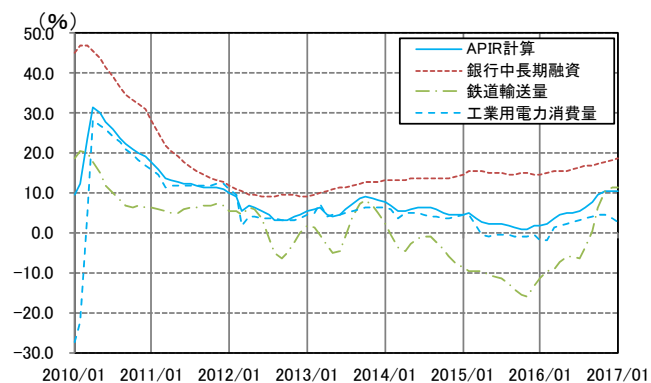
(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(8) リコノミクス指数

1月のリコノミクス指数(APIR 試算)は前年同月比+10.5%と前月から-0.1%ポイント下落し、2カ月連続のマイナスとなった。内訳をみると、銀行中長期融資は同+18.8%となり、伸びは前月から+0.6%ポイント上昇し、

13 カ月連続で加速している。鉄道輸送量は同+11.3%となったものの、伸びは前月から-0.2%ポイント下落し、6カ月ぶりの減速。工業用電力消費量は同+2.9%となったが、伸びは前月から-0.7%ポイント下落し、2カ月連続で減速している。

APIR 試算のリコノミクス指数とその内訳(2017年1月まで)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

Contact : 林万平・木下祐輔・James Brady・Cao Thi Khanh
Nguyet

Tel. 06-6485-7695,

E-mail. contact@apir.or.jp

Release Calendar for February/March

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
27-Feb	28-Feb 商業動態調査 (1月:速報値) 全国鉱工業生産指数 (1月:速報値) 新設住宅着工(1月)	1-Mar 中国製造業 PMI (2月)	2-Mar	3-Mar 求人倍率(1月) 完全失業率(1月) 消費動向調査(2月)
6-Mar	7-Mar	8-Mar 景気ウォッチャー調査 (2月) 中国輸出入 (2月:速報値)	9-Mar 毎月勤労統計 (1月:速報値) 近畿鉱工業生産指数 (1月速報)	10-Mar 近畿貿易統計 (1月確速)
13-Mar	14-Mar 中国消費小売総額 (2月) 中国工業生産 (2月) 中国固定資産投資 (2月) 中国不動産市場 (2月)	15-Mar 全国鉱工業生産指数 (1月:確報値) 商業動態調査 (1月:確報値) マンション契約率 (2月) 公共工事前払保証額 統計(2月)	16-Mar	17-Mar 建設総合統計(1月)
20-Mar	21-Mar 近畿貿易統計 (2月速報)	22-Mar 全国貿易統計 (2月:速報)	23-Mar 毎月勤労統計 (1月:確報値)	24-Mar
27-Mar	28-Mar 近畿鉱工業生産指数 (1月確報)	29-Mar 商業動態調査 (2月:速報値)	30-Mar 全国貿易統計 (2月:確速)	31-Mar 新設住宅着工(2月) 全国鉱工業生産指数 (2月:速報値) 求人倍率(2月) 完全失業率(2月)